

徳川^{なりあき}齊昭・徳川慶喜と旧取手宿本陣

徳川齊昭

水戸藩 9 代藩主となった徳川齊昭は、寛政 12 年（1800）に 7 代藩主の徳川治紀（はるとし）の三男として、江戸小石川の水戸藩邸に生まれました。

兄の 8 代藩主齊脩（なりのぶ）が、文政 12 年（1829）に跡継ぎの男子がないまま死去したため、同年 9 代藩主となりました。

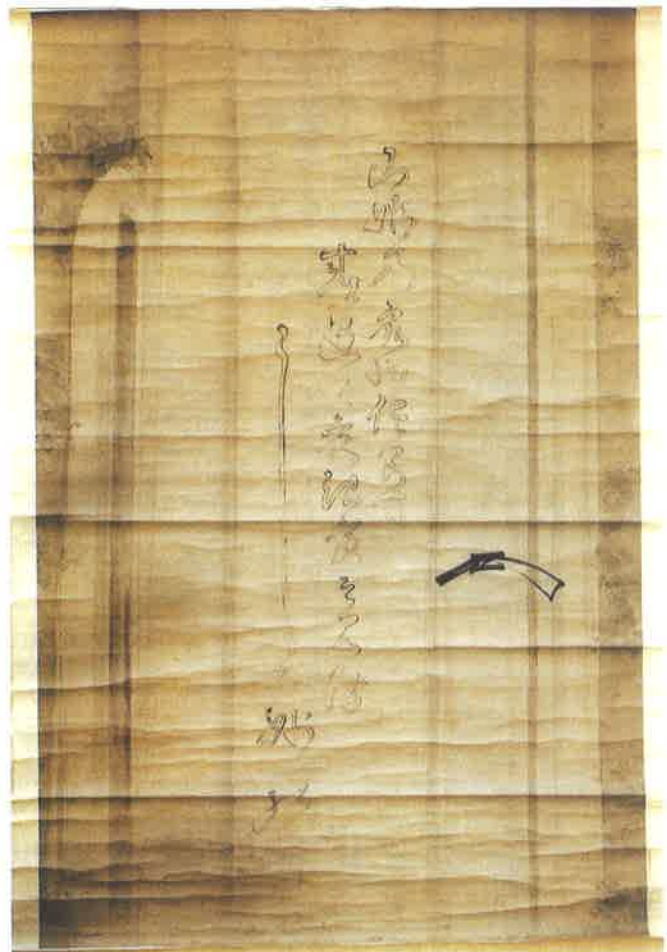
藩主となった齊昭は、天保 4 年（1833）に初めて水戸に入ります。これを、就藩（しゅうはん）と言います。3 月 2 日に江戸を出立した齊昭の行列は、この日は松戸で昼食をとり小金に宿泊、翌 3 日は取手で昼食をとり牛久に宿泊、翌 4 日は中村（土浦市）で昼食をとり府中（石岡市）に宿泊、翌 5 日は長岡（茨城町）で昼食をとり、3 泊 4 日で水戸に到着しました。

水戸に滞在すること約 1 年、翌天保 5 年に齊昭は江戸に戻ります。これを、帰府と言います。4 月 23 日に水戸を出立した齊昭の行列は、この日は長岡で昼食をとり府中に宿泊、翌 24 日は中村で昼食をとり牛久に宿泊、翌 25 日は取手で昼食をとり小金に宿泊、翌 26 日に千住で昼食をとり江戸の水戸藩邸に到着しました。

4 月 25 日に昼食のため取手宿本陣に立ち寄った齊昭は、壁紙に使っていた文谷筆の瀧の面に、「山姫の 衣やさらす 春過て 夏きてそ見る しろ妙の（瀧）」の和歌を書いています。この壁紙は後にはがされ軸装されています（染野修氏所蔵、通常は非公開）。

次いで天保 11 年、齊昭は 2 度目の就藩をします。同年 1 月 22 日、利根川を渡った齊昭は取手宿本陣に宿泊します。翌 23 日の出立にあたり齊昭は、前日に利根川を渡る船の中で詠んだ和歌 2 首を上段の間の袋戸の下に貼り付けました。

2 首の和歌は、「さして行く 棹のとりての わたしふね 思ふ方ニハとくつきにけり」、「行末に さをもとり手の わたし船 わたれる世を



徳川齊昭が瀧の面に書いた和歌



徳川斉昭が利根川を渡る船中で詠んだ和歌

ハ あたにくらすな」です。和歌を書いた紙は後にはがされ軸装されて、やはり本陣のご子孫宅に伝えられています(染野修氏所蔵、通常は非公開)。

斉昭は、1首目の和歌を特に気に入ったようで、天保14年にはこの和歌を石碑に刻み、本陣の染野家に贈っています。歌碑の和歌は、「指て行 さほのとりての 渡し舟 おもふかたへは とくつきにけり」となっています。漢字と仮名の使い方の他に、当初の「思ふ方ニハ」が歌碑では「おもふかたへは」となっていて、推敲の手が加えられたことがわかります。

これらの和歌や歌碑は、水戸徳川家と取手宿本陣染野家との深いつながりを現在にまで伝えていきます。

徳川慶喜

江戸幕府最後の将軍(15代)となった徳川慶喜は、徳川斉昭の7番目の男子で、幼名を松平七郎麻呂と言いました。生まれは天保8年(1837)です。

弘化4年(1847)、七郎麻呂は御三卿(ごさんきょう)の一橋家相続の含みをもって幕府から出府を命じられ、9月に一橋家を相続しました。12月には元服し、時の12代将軍徳川家慶の「慶」の字をもらい、名を慶喜と改めました。

さて12代将軍であった徳川家慶の実父徳川家斉(11代将軍)は、一橋家から徳川宗家を継ぎ将軍となっていて、将軍家



徳川斉昭の歌碑

と一橋家は当時最も近い間柄になっていました。家慶には後に13代将軍となる家定しか成人した男子に恵まれず、しかもこの家定は病弱なところがあり、将来跡継ぎとなる男子を得られるか心もとない状況にありました。実際家定は、子供に恵まれずに死去しています。

よって七郎麻呂が一橋家を継ぐことは、将来将軍になれるかもしれない地位を獲得することを意味しました。紆余曲折はありましたが、慶喜は15代将軍となりました。

時は移り慶応4年(1868)4月11日、江戸開城の日の朝、慶喜は謹慎先の上野寛永寺大慈院を出て、新たな謹慎先と定められた水戸に向かい、その日は松戸に宿泊します。翌4月12日には我孫子で昼食をとり、利根川を渡り取手宿本陣で休息します。今となっては真偽のほどは確かめようもありませんが、慶喜は表門で駕籠をおりて草履をはき、式台玄関まで歩いて建物に入ったと伝えられています。その日は藤代宿本陣に宿泊しました。

明治維新後も、慶喜は何度か取手の地を訪れています。明治31年(1898)10月22日には、慶喜は弟であり最後の水戸藩主(11代)となった徳川昭武とともに稲村(現取手市稲)で狩猟をし、その日は松戸にある戸定邸に泊まっています。

翌明治32年3月6日・4月8日と、慶喜はやはり昭武とともに取手付近で狩猟をして、両日とも東京に帰っています。また10月14日と17日には藤代あたりで狩猟をしています。他にも3月5日と16日には布施村(柏市布施)あたりで、11月6日には牛久でと、利根川をはさんだ取手周辺で狩猟を楽しんでいます。

明治33年にも10月19日に、場所
所は特定できませんが、昭武と共に利根川で釣りをしています。12月15日には、やはり昭武と共に取手で狩猟をしています。さらに明治34年3月20日には、上野発7時30分の汽車で藤代に狩猟に出かけています。おそらくそれ以前も、汽車で移動していると思われます。

時代は大名行列が街道を行き来した近世から、先の将軍や水戸藩主が気軽に汽車に乗って狩猟を楽しむ近代へと、確実に変化を遂げていったことを象徴する出来事と言えるでしょう。



旧藤代宿本陣の玄関右にあった松



旧藤代宿本陣の玄関左にあったサルスベリ

旧取手宿本陣染野家住宅

(茨城県指定文化財、取手市指定史跡)

所在地：茨城県取手市取手 2-16-41

公開日：毎週金・土・日曜日

時間：午前 10 時から午後 4 時

入場は 3 時 30 分まで

交通：JR 常磐線取手駅東口から
徒歩 10 分

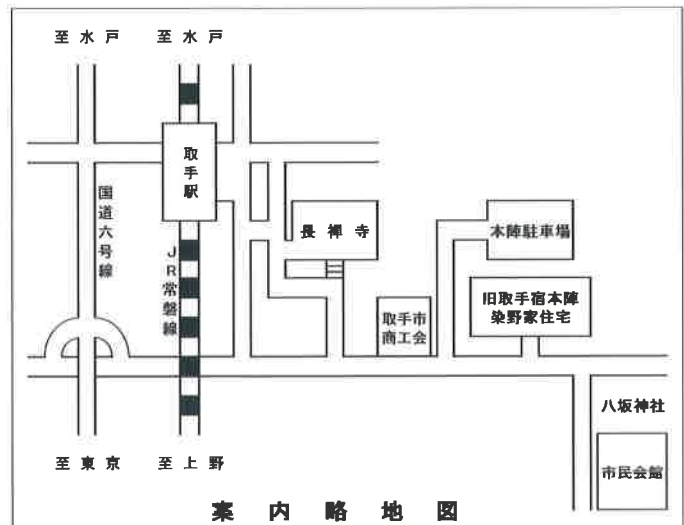
駐車場：あり（無料）

旧藤代宿本陣（建物はありません）

所在地：茨城県取手市藤代 491

（藤代公民館敷地）

交通：JR 常磐線藤代駅北口から
徒歩 10 分



旧取手宿本陣周辺の文化財

長禪寺三世堂（茨城県指定文化財）

所在地：茨城県取手市取手 2-9-1

八坂神社拝殿・本殿（市指定文化財）

所在地：茨城県取手市東 1-2-9

◎外観見学、参拝や境内散策は自由（無料）、ただし建物内部は通常非公開



長禪寺三世堂



八坂神社拝殿（右）と本殿（左）

問合せ：取手市埋蔵文化財センター

302-0007 茨城県取手市吉田 383

電話 0297-73-2010 FAX0297-73-5003